



# 制作のプロセスから新しい アイデアが生まれる

“まちを編集する出版社” 千十一編集室 代表 影山 裕樹 氏

ワークショップ  
講師の影山さんに  
伺いました



緊急事態宣言の合間を縫って、開催にこぎつけた下野市役所のみなさま、らいさま編集委員のみなさまのご協力に感謝いたします。下野市に伺うのは初めてで、いわゆる都市郊外の課題を抱えているのと同時に、魅力もたくさん秘めている土地だと感じました。僕が特にハマったのは、道の駅に突如として現れたあの、なんてことない展望台。滑り台付きのですね。地元の人からすると、風景の一部になっているかもしれませんが、よそ者からするととてもユニークで刺激的な施設だと思います（本当です!）。ローカルメディアは出来上がったものそのものよりも、その制作のプロセスの中で、多様な市民が協働し、新しいアイデアや視点が生み出されるところに価値があります。ぜひ、らいさまというローカルメディアを起点としながらも、今後もさらなる市民どうしの協働、そしてよそ者との交流が生み出されることを祈っています。

## らいさまNEWS

### ニュース 姿西部考古台地コミュニティセンターがリニューアル



旧国分寺西小学校のランチルームを改修し、令和3年4月より姿西部考古台地コミュニティセンターとして活用しています。平成31年3月に64年間の歴史に幕を閉じた国分寺西小学校は、周りにたんぼぼが咲いていたためたんぼぼ学校と呼ばれ、校章もたんぼぼをデザインしたものであったことから、施設の名前は【たんぼぼ館】と名づけられました。地域住民が自主的に協力しあう地域コミュニティの拠点として、指定管理者に選定された姿西部考古台地コミュニティ推進協議会が管理運営を行っています。ちなみに移転前まで姿西部考古台地コミュニティセンターとして使用していた施設は、姿西児童館として今も活用されています。

2005年10月3日にオープンした、姿西児童館「こだま館」の2階がコミュニティセンターでした。役員会議や年に数回の行事等での利用しかなく、階段の上り降りが困難になってきた方のお声も聞いていました。これからは、西小のランチルームだった利点を生かして、「ちょっと行ってみようかな!」と思っていただけ場所にしていきます。皆さまのご予約をお待ちしています。



～姿西部コミュニティ推進協議会会長 近藤令兒～  
電話…080-5828-9884 mail…tanpopokan@gmail.com

### 編集後記



2014年度の夏から始まったらいさま編集委員会も7年が経ち8年目を迎えようとしている。第1号で取材した第一回吉田村まつりの会場に隣接する旧農協の石蔵は2021年度の夏に食に関連した店舗や農泊やグリーンツーリズムの拠点としてオープンするようだ。市内のまちづくりの現場に出向き当事者の話を聞き、少しは知った気になったものの7年の月日がマチもヒトも変化させる。日常生活の中でパターン化した自分の行動範囲を越えてみると下野市は思いの外広い。そして、訪ねたことのない地区がまだまだ眠っていることに気づかされる。これからもSNSの発信からこぼれ落ちたものも積極的に掘りおこしながら、地域コミュニティやヒト、文化的資源などを訪ねて下野市の各地の今を編集し続けるローカルメディアでありたい。(お)

【表紙】下野市のローカルミーム(文化的遺伝子)を切り取る